



会期 2017年3月29日(水)～5月28日(日)

菊池寛実記念 智美術館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1F

TEL03-5733-5131 FAX03-5733-5132 <http://www.musee-tomo.or.jp>

プレスレビューのご案内は10頁をご覧ください。

このたび当館では本年3月に104歳を迎えられる作家、篠田桃紅^{とうこう}氏の創作を紹介する展覧会、「篠田桃紅 昔日の彼方に／Toko Shinoda—in the autumn of my years...」を開催いたします。

篠田桃紅氏（1913～）は墨と紙の芸術家です。旧満州の大連で生まれ、幼年時に父に手ほどきを受けて以来ほぼ独学で書を学んだ篠田氏は、1956年から58年にはニューヨークに渡り、当時先端の美術の洗礼を受けながら制作を続け、墨による表現の可能性を広げていきます。既存の筆法や書風を超えて文字を追求し、墨線による抽象のかたちへと昇華させた氏の作品は、国内外で高い評価を受けて来ました。

当館は篠田氏の作品を館内に常設展示する、所縁ある美術館として2013年に百寿を記念する展覧会を開催いたしました。氏は104歳を迎える現在も旺盛に制作を続けておられます。本展では前回展と同様に、作家のメイン・ディーラーとして40年来活動を見守ってきたノーマン・トールマン氏を監修者としてお迎えし、旧作の絵画や書に、最新作を加えて、篠田桃紅の世界をご紹介します。

■展覧会概要

| | |
|-------|--|
| 展覧会名 | 篠田桃紅 昔日の彼方に Toko Shinoda—in the autumn of my years... |
| 主催 | 公益財団法人菊池美術財団、ザ・トールマン コレクション |
| 企画・監修 | ノーマン・トールマン |
| 後援 | 在日米国大使館、The Japan Times |
| ○会期 | 2017年3月29日（水）～ 5月28日（日） |
| ○会場 | 菊池寛実記念 智美術館（〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-35 西久保ビル） http://www.musee-tomo.or.jp |
| ○開館時間 | 午前11時から午後6時まで（入館は午後5時30分まで） |
| ○休館日 | 月曜日 |
| ○観覧料 | 一般1,000円／大学生800円／小中高生500円 |
| ○展示内容 | 1960年代から最新作までの書画、リトグラフ等、約50点（予定） |
| ○関連行事 | 会期中、学芸員による展示解説、及び西洋館見学会を開催 |

リピーター割引

会期中、2回目のご鑑賞の方は本展半券のご提示にて300円割引となります。※招待券は適用外。他の割引は併用できません。

その他、詳細については美術館までお問い合わせください

展覧会に関するお問い合わせ：

担当：花里・高田

（☎03-5733-5131 / FAX03-5733-5132）



1 「Monument」2013年 146.0×98.0 cm

■ 展覧会内容のご案内

篠田桃紅氏は書家であり、また**墨象**と呼ばれる墨の色と線で構成される抽象画によって国際的に高い評価を受ける芸術家です。氏は古典の名筆や文学への深い素養を下敷きにしなが、季節の移ろい、自然の景、記憶に刻まれた色や香りなど、日々出会い、過ぎ去る事象を鋭敏な感覚でとらえ、墨と水、筆の運びに託し作品に表わしてきました。書、抽象画ともにその水墨作品には、篠田氏にしか引けない線の力があり、独自の美意識が貫かれています。そうした創作に生きる時を重ね、篠田氏は本年3月28日に104歳を迎えられます。近年では作品のみならず、遠徹した眼差しで人間の孤をみつめ、独り豊かに生きる氏の存在そのものにも、大きな注目が集まっています。

このような稀有な作家の個展を再び開催できますことは、智美術館にとりまして大変喜ばしい機会といえます。先の展覧会では、百歳を超えてなお1m以上の作品を制作する作家のエネルギーに大きな反響をいただきました。この度の展覧会でも、書、抽象画、リトグラフなど旧作から最新作まで約50点(予定)を展示し、篠田氏の格調高い世界をご覧ください。



2 「贅(いし)のうへ」1990年頃 94.0×138.0 cm

104歳を迎える作家の、 時の重なりを示す作品

篠田氏の活動は、20代半ばの初個展から今日まで、約80年を数えます。作品No.2では紺紙に銀泥で、詩人、三好達治の詩句が篠田氏独特の細く、鋭い字で書かれています。本展では本作とつながる同じ紺紙に、より古い年代に書かれた作品も合わせて展示を予定しています。これらを見較べると、経年により自然に生まれた紙や銀の変化が各々に見て取れ、作品の時の重なりを感じさせます。

篠田桃紅の表現一墨による線と色の世界

篠田氏の作品には紙の白を切り裂くような、強く鋭い線から、淡く繊細な薄墨の色まで、多様な墨の表現を見出すことができます。いずれも和紙を支持体として、墨と水を用い「書く」行為が制作の根底にあります。それは墨を含んだ筆が紙に触れた瞬間、水気がうつり、色が浸透する、やり直しのきかない描法です。書から始まった篠田氏にとり、そうした墨の特性は自然と身に馴染んだものでした。戦後、文字という枠からより自由になりたいとの思いから、抽象のかたちを求めた後も、墨の線と色を用い書くことが、篠田氏の表現の基本となっています。

墨は風土や気候、擦り具合、紙や筆の選択などによって多彩に変化し、作家の筆運び、手と身体の動きはそのまま線と色の痕跡に変換されて、紙の上に無限のバリエーションを生みます。絵具を用い、色と形を塗りこめていく絵画が、時に複数の人間で分担制作も可能な表現であるのに対し、こうした書くという行為は、独りで行う、祈りにも似た孤独のかたちであると篠田氏は述べておられます。

人が一刻、一日と生き、生涯を送るように、今日も書き続けられる墨の色と線の重なりには、篠田氏の独りある生が込められています。



3 「Flamboyance」 2016年 100.0×55.0cm



4 「Omnipotence」 2014年 45.0×170.0cm

智美術館に常設される篠田作品 — 篠田氏と美術館創設者・菊池智の交流



「ある女主人の肖像」 1988年頃
(智美術館、エントランスホール)

2003年の竣工当初より、智美術館の建物には篠田氏の作品2点が常設作品として設置されています。

正面玄関を入った一階には「ある女主人の肖像」が、一階と地下展示室を結ぶ螺旋階段の壁面には、いろは歌の書をもとに円形の空間に合わせ再制作されたコラージュ、「真・行・草」が掲げられ来館者を迎えます。これらは篠田氏と美術館創設者の菊池智の所縁により、美術館設立以前に菊池が収蔵した作品で、両者の長年にわたる交流の証でもあります。作品設置においては菊池自身が細部にわたり心をつくしました。両作品の緊張感ある佇まいは、館の建物に凜とした空気をもたらしています。



5 「Chikara」2011年 90.0×60.0 cm



6 「Departure - Cloud」2016年 60.0×45.0 cm



作家近影（撮影：福田清之）

■ 展覧会関連行事

会期中、下記の関連行事を開催いたします。

● 学芸員による ギャラリートーク

（予約不要、参加費無料。要入館券）

4月8日、15日、22日 / 5月6日、13日

各土曜日午後2時より

● 西洋館見学会

（予約制・定員20名様）4月15日（土）11時より

当館敷地内の西洋館（登録有形文化財）は、大正時代に建てられた後、修復を重ねながらも建具等の室内装飾が丁寧に保全され、今日まで使用されている稀有な建物です。通常非公開の内部を、展覧会の期間中に特別公開いたします。

※西洋館のご案内（建築家 篠田義男氏による）、美術館観覧料（学芸員の解説付き）、レストラン ヴォワ・ラクテでのランチを含め、お一人様8,000円です。

■篠田桃紅(Shinoda Toko)略歴

- 1913 大正2年3月28日、旧満州国大連に生まれる。翌年、父の転勤で東京に戻る
- 1919 この頃、初めて筆と墨に触れる
- 1935 書を教え始める
- 1940 初めての個展「書」(鳩居堂、東京)
- 1945 既成の書の形にとらわれない墨による新たな形を描き始める
- 1953 「日本の建築と書」(ニューヨーク近代美術館、以後アメリカ各地を巡回)
- 1954 「日本現代書展」(ニューヨーク近代美術館)
「サンパウロ市400年祭り」日本政府館のために壁書を制作
個展(銀座松坂屋、東京)
- 1955 「ワシントン州国際見本市」日本モデルルームのために壁書を制作
「ヘルシンボール生活文化展」(スウェーデン)日本館のために壁書を制作
「現代日本の書・墨の芸術-ヨーロッパ巡回展の国内展示」(東京国立近代美術館)
「日・米抽象美術展」(東京国立近代美術館)招待出品
- 1956 個展[抽象](養清堂画廊、東京)
渡米、ニューヨークに滞在
個展(スエゾフ・ギャラリー、ボストン)
- 1957 個展(バーサ・シェイファース・ギャラリー、ニューヨーク)
個展(タフト美術館、シンシナティ)
個展(アート・インスティテュート・オブ・シカゴ)
個展(ギャラリー・ラ・ユース、パリ)
- 1958 個展(ジェファーソン・プレイス・ギャラリー、ワシントンD.C.)
帰国
「抽象絵画の展開展」(東京国立近代美術館)
- 1959 「日本美術の伝統と革新 - 白隠、志功、桃紅、南谷4人展」
(クレラー・ミュラー美術館、オテルロー、オランダ)
個展(パレ・デ・ボザール、ブリュッセル)
- 1960 フィラデルフィア美術館から来日した刷師アーサー・フローリーの勧めでリトグラフを制作し始める
- 1961 「第6回サンパウロ・ビエンナーレ」招待出品
「ピッツバーグ国際現代絵画彫刻展」(カーネギー・インスティテュート)招待出品
「現代日本絵画展」(芸術アカデミー、ベルリン)
- 1962 「現代日本の書:意味と記号展」(ドイツ巡回)
「近代日本の造形 絵画と彫刻」(東京国立近代美術館)
日南市文化センター講堂に緞帳を、ホワイエのために陶壁を制作(宮崎)
- 1964 国立代々木競技場のために壁画を制作(東京)
- 1965 個展(ベティー・パーソンズ・ギャラリー、ニューヨーク) 68年、71年、77年も開催
国立京都国際会館2階ロビーのためにレリーフと壁画を制作
- 1966 個展(ベルリン市庁舎)
個展(フランネル・ギャラリー、東京)
「カナダ・モントリオール万国博覧会」日本館のために壁画を制作
個展(レツィルクザムト・フォン・ベルリン)
- 1967 第1回ジャパン・アート・フェスティバル(ニューヨーク、シカゴ等巡回)
「ROSC '67(第1回展)世界50人展」(ロイヤル・ダブリン・ソサエティー)

- 1970 京王プラザホテル貴賓室、次特別室、ロビー、客室に屏風とリトグラフを制作（東京）
- 1971 「ROSC '71、10人の作家展-デュビュッフェ、アルトゥング、デ・クーニング、ミラレス、ミロ、ピカソ、篠田、スーラージュ、タピエス、ザオ・ウォーキー」（ロイヤル・ダブリン・ソサエティー）
- 1972 個展（日本橋高島屋、東京）
- 1973 「戦後日本美術の展開 - 抽象表現の多様化」（東京国立近代美術館）
- 1974 増上寺大本堂、ロビーのために壁画を、道場のために襖絵を制作（東京）
- 1976 個展（トールマン・コレクション、東京）
- 1977 ワシントン駐米大使公邸のために壁画を制作
- 1978 個展（高島屋美術画廊、岐阜）
- 1979 ホテル・ヴィトシャのために壁画を制作（ソフィア、ブルガリア）
随筆集『墨いろ』で第27回日本エッセイスト・クラブ賞受賞
「岡田・篠田・津高 - 20世紀日本抽象絵画三人のパイオニア」
（フィリップス・コレクション、ワシントン、以後アメリカ各地を巡回）
- 1980 芝増上寺大本堂にて個展「創造と伝統」、絵画と版画を制作
（トールマン・コレクション主催、東京）
- 1982 個展「篠田桃紅展 銀と墨」（ギャラリー・ところ、東京）
- 1984 彫刻家との二人展 Toko Shinoda and Elizabeth de Cuevas（ブルース美術館、コネチカット州）
- 1986 ノーベル賞のための「オマージュ・オ・ノーベル」（オリジナル・リトグラフ）を刊行
個展「TOKO SHINODA RECENT WORKS -Brush Paintings-」
（ギャラリー・ところ、東京）
個展「篠田桃紅 ドローイング展」（Galerie 412、東京）
- 1988 個展「篠田桃紅 新作展」（養清堂リフレクション・ギャラリー、東京）
- 1989 個展「篠田桃紅展」（西武美術館主催、有楽町アート・フォーラム、東京）
「絵画と文字：描かれた文字 / 書かれた絵」（北海道立函館美術館）
- 1991 個展（高島屋美術画廊、岐阜）
- 1992 「書と絵画の熱き時代・1945～1969」（O美術館、東京）
個展「篠田桃紅 1982-1992 版画展」（ギャラリー・ユマニテ・名古屋2、名古屋）
回顧展「篠田桃紅 時のかたち」（岐阜県美術館）
- 1993 トールマン・コレクションによる回顧展「篠田桃紅 - 新たなる認識」
（版画集 篠田桃紅「A New Appreciation」（タトル出版）刊行記念（銀座三越、東京）
御所 御食堂のために絵画を制作
- 1994 「戦後日本の前衛美術」（横浜美術館、以後グッゲンハイム美術館、サンフランシスコ近代美術館へ巡回）
個展（シンシナティー美術館）
国際協力事業団大阪国際センターのために壁画を制作（大阪）
岐阜県民文化ホール未来会館のために絵画を制作
川崎市国際交流センターのために絵画を制作
- 1995 「戦後文化の軌跡 1945-1995」（目黒区美術館、他巡回）
- 1996 福岡RKB放送センター、ロビーに壁画を制作
シンガポール・国立アート・ミュージアム初の日本人作家による個展「TOKO SHINODA - VISUAL POETRY」（トールマン・コレクション主催）
- 1997 個展（鎌倉画廊、東京）
個展（画廊 光芳堂、岐阜） 2002年も開催

- 1998 個展（アネリー・ジュダ・ギャラリー、ロンドン）
1999 東京文化会館の名称ロゴを制作
個展「篠田桃紅展 新作ドローイング、銅版画」（養清堂画廊、東京）
ルクセンブルク大公妃殿下のご訪問を受ける
2000 東邦ガス本社のために壁画を制作（名古屋）
2001 草月会館にて個展（25年間のトールマンコレクション発行版画を集めた回顧展、東京）
個展「境を超えて」（モルガン・スタンレー・ディーン・ウィッター・ジャパン主催
恵比寿ガーデンプレイス、東京）
個展「篠田桃紅近作展」（ギャラリー・ユマニテ、東京）
個展（光玄、名古屋）
2003 90歳記念個展「篠田桃紅 朱よ」（トールマン・コレクション主催、原美術館、東京）
2005 個展「墨いろに心を託した作家のあゆみ」（トールマン・コレクション主催、新生銀行本店
20階ホール、東京）
2009 個展（トールマン・コレクション主催、蘭クラブ、北京）
2011 個展 リヒテンシュタイン・グローバル・トラスト（LGT銀行）香港開業25周年記念個展
（トールマン・コレクション主催、エクステンジ・スクエア内ロタンダ、香港）
2012 個展「Guided by the Brush」（トールマン・コレクション、ニューヨーク）
2013 個展「50 Prints & Paintings, Toko Shinoda at 100」（トールマン・コレクション監修、
ポートランド日本庭園、オレゴン州）
個展 「Trailblazer」（ジャパソサエティ、ニューヨーク）
回顧展「篠田桃紅 百の譜」（岐阜現代美術館・関市立篠田桃紅美術空間・岐阜県美術館・
画廊光芳堂、岐阜）
100歳記念個展「篠田桃紅の墨象」（トールマン・コレクション共催、智美術館）
2015 「Breaking Barriers - Japanese Women Print Artists 1950-2000」（ポートランド・アー
トミュージアム、オレゴン州）
『103歳になってわかったこと 人生は一人でも面白い』刊行（幻冬舎）
2016 「ザ・トールマンコレクションの篠田桃紅百三景」（コンラッド東京）

■パブリック・コレクション（抜粋）

■メトロポリタン美術館（ニューヨーク）、■グッゲンハイム美術館（ニューヨーク）、■ボストン美術館、■オルブライト・ノックス美術館（ニューヨーク）、■ブルックリン美術館（ニューヨーク）、■アート・インスティテュート・オブ・シカゴ、■シンシナティ美術館（オハイオ州）、■フォッグ美術館（ハーバード大学付属、マサチューセッツ）、■スミソニアン・アーサー・M・サックラー・ギャラリー（ワシントンD.C.）、■スミス大学美術館（マサチューセッツ州）、■大英博物館（ロンドン）、■フォルクヴァング美術館（エッセン、ドイツ）、■国立ベルリン東洋美術館、■クレラー・ミュラー美術館（オテルロー、オランダ）、■シンガポール・国立アート・ミュージアム■ハーグ市立美術館（デン・ハーグ、オランダ）、■ティコティン日本美術館（ハイファ、イスラエル）、■ロックフェラー財団（ニューヨーク）、■フォード財団（ニューヨーク）、■ルクセンブルク王室、■増上寺（東京）、■宮内庁、■駐米日本大使公邸（ワシントンD.C.）、■日本銀行（東京）、■東京アメリカン・クラブ、■京都迎賓館、■関市立篠田桃紅美術空間（岐阜県）、■岐阜県美術館、■富山県立近代美術館、■東京国立近代美術館、■原美術館（東京）、■菊池寛実記念智美術館（東京）

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースで紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸し出す画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

掲載に関するお問い合わせ先 菊池寛実記念 智美術館（担当：花里、島崎）

TEL.03（5733）5131 FAX.03（5733）5132 <http://www.musee-tomo.or.jp/>

掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX：03-5733-5132

●貴社基本情報

| | |
|---------|--------|
| 会社名： | |
| 担当部署： | 担当者名： |
| 住所： | |
| 電話 | ファックス： |
| E-MAIL： | |

●媒体情報

| | | |
|----------|------|-------|
| 新聞 雑誌 | 媒体名： | |
| | 発行日： | 発売日： |
| TV | 媒体名： | |
| ラジオ | 放送日： | 放送時間： |
| ネット | URL： | |

●画像貸出リスト ※キャプションには作者/作品名/制作年/撮影者を必ず入れてください。

| 希望作品に☑ | 作品キャプション |
|--------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> | 1 篠田桃紅 「Monument」 2013年 146.0×98.0 cm （撮影：尾見重治、大塚敏幸） |
| <input type="checkbox"/> | 2 篠田桃紅 「甃（いし）のうへ」 1990年頃 94.0×138.0 cm （撮影：尾見重治、大塚敏幸） |
| <input type="checkbox"/> | 3 篠田桃紅 「Flamboyance」 2016年 100.0×55.0 cm （撮影：尾見重治、大塚敏幸） |
| <input type="checkbox"/> | 4 篠田桃紅 「Omnipotence」 2014年 45.0×170.0 cm （撮影：尾見重治、大塚敏幸） |
| <input type="checkbox"/> | 5 篠田桃紅 「Chikara」 2011年 90.0×60.0 cm （撮影：尾見重治、大塚敏幸） |
| <input type="checkbox"/> | 6 篠田桃紅 「Departure — Cloud」 2016年 60.0×45.0 cm （撮影：尾見重治、大塚敏幸） |

●読者プレゼント用チケット希望： 5組 10名様 10組 20名様

プレスプレビューのご案内

プレビュー当日は展覧会の内容をご案内申し上げます。

展覧会の企画・監修者ノーマン・トールマン氏も同席される予定です。

ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

プレスプレビュー 2017年3月28日(火) 14:00～

14:00～14:45 展覧会の見どころをご説明申し上げ、作品解説などギャラリートークを行います。展覧会の企画・監修者ノーマン・トールマン氏も同席される予定ですのでインタビューなどをお受けいたします。また、展覧会場内ご撮影いただけます。

14:45～15:00 皆様からのご質問にお答えいたします。

会場： 菊池寛実記念 智美術館 〒105-0001 港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1

- ・日比谷線・神谷町駅出口 4b より徒歩 6分
- ・南北線・六本木一丁目駅改札口より徒歩 8分
- ・南北線／銀座線・溜池山王駅出口 13 より徒歩 8分
- ・銀座線・虎ノ門駅： 出口 3 より徒歩 10分

◆.....
ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、FAXにて

ご返信下さい。 **返信先 FAX 03-5733-5132**

| | |
|----------------|-------------|
| 会社名： | |
| 担当部署、氏名 | |
| | |
| 住所： | |
| 電話： | FAX： |
| Email | |